

英語教育シンポジウム2020

実践研究

「つながる」英語の授業をつくる ～対面とオンラインで～

発表者：長沼 君主（東海大学）
工藤 洋路（玉川大学）
津久井 貴之（大妻中学高等学校）

このセッション（70分）の流れ

1. 本実践研究の背景（工藤）
2. 「オンデマンド型授業」（津久井）の視聴
3. 「同時双方向型授業」（津久井）の体験
4. 「対面授業」（津久井）の視聴
5. 解説①（工藤）
6. 解説②（長沼）

本実践研究の背景

- コロナ禍の今年度、これまでの「対面授業」ができない時期があった（今もできていない学校も）
- 「対面授業」の代替えとして「オンライン授業」が行われるようになった

①対面授業

ペアワークは避けないと…

②オンライン授業

- ・ オンデマンド型授業
- ・ 同時双方向型授業

その場の反応がない…

機器の操作が大変…
目が疲れる…

今年度の多様な授業形態の実践を振り返る

■ それぞれの授業形態の特徴を整理する

⇒ 各形態の強みと弱みが分かる

■ 対面授業とオンライン授業と比べる

⇒ 「対面授業」のあるべき姿が見える

コロナウイルスの感染が終息した後はどうする？

⇒ 「対面」のみ？

⇒ 「対面」と「オンライン」の併用？

本実践研究では…

- ①対面授業、②オンデマンド型授業、③同時双方向型授業の3つの形態の授業を検証する
- 比較検証をするために、津久井先生に、3つの形態を、同じ教材を使って、実践してもらった（②はこの場で実践）
 - ① オンデマンド型授業…本研究のために録画
 - ② 同時双方向型授業…本セッションで実演
 - ③ 対面授業…実際に高校で行われた授業

津久井先生の3つの授業の特徴

～teacher talk～

オンデマンド型	<ul style="list-style-type: none">● しっかりと準備がされている印象● ゆっくり話し、ポーズを多めに取る● 単語の個々の音を省略しないで話す● 音を出す前に、最初の音を発音する口の形がまず作られ、間を置いてから、発話する
同時双方向型	<ul style="list-style-type: none">● オンデマンド型と対面のちょうど中間の印象● 準備した英語を読み上げているように聞こえる部分と、その場で即興的に話しているように聞こえる部分が混在
対面	<ul style="list-style-type: none">● 流暢であり、カジュアルな話し方をしている印象● 語末の音は消えることがある

津久井先生の3つの授業の特徴

～本文内容へのアプローチ～

オンデマンド型	<ul style="list-style-type: none">● 先生が話しながら、色々なジェスチャーを使った● 先生の話の中のウソを見抜くという活動を行った
同時双方向型	<ul style="list-style-type: none">● non-verbalが占める割合について、投票機能を使って、クラス全員の考えを集約した
対面	<ul style="list-style-type: none">● ペアワークで、アイコンタクトを取らずに、picture describingを行った● ペアで、non-verbalが占める割合について考え、順に考えを発表した

授業形態によって、本文内容へのアプローチ方法が異なる

オンデマンド型授業に必要な教師のスキル ～生徒を授業に引き込むためには～

- 生徒に考えさせる場面を多く作る

Now we're learning about non-verbal communication associated with (↑) ... telling (↑) ... telling a lie.

- 質問（疑問文）を多めに用い、生徒を引き込む

Am I telling a lie to you right now? What do you think? Well, of course not. This is just the introduction of today's class.

同時双方向型授業に必要な教師のスキル

～生徒の反応にどう対応するか～

- チャットの生徒の反応をどう拾うか

来た順番
で、なん
となく、
面白いも
のを選ぶ

行き当たり
ばつた
りの授業

<aaaから全員へ> 手を振る
<bbbから全員へ> 視線をそらす
<cccから全員へ> 鼻をこする
<dddから全員へ> 踊る
<eeeから全員へ> ウィンクする
<fffから全員へ> 口を尖らす
<gggから全員へ> 泣く
<hhhから全員へ> ピースする
<iiiから全員へ> バンザーイをする

次に読む本文の
内容に関連のあ
るものを拾う

想定した3つの
カテゴリーの例
を1つずつ選ぶ

目的のある、流
れの良い授業

「対面授業」ならではの特徴

(得られる情報のうち、non-verbalなものが占める割合を、クイズ形式で当てる活動で)

T: Words. Any volunteers? Just tell me the number. Yes.

S: Eighty.

T: Eighty? Eighteen?

S: Eighty.

T: Eighty percent. How about this pair?

S: Seven...

T: Seventeen or seventy?

S: Seventeen.

T: Seventeen? Seventy.

S: Seventy.

T: Seventy. Thank you. Eighty. Seventy. How about you?

S: Seventy-five.

T: Accurateって言ったからね、当てにいつてますね。Seventy-five. How about this pair?

S: (首を横に振る)

T: No. (首を振る動作を受けて) Non-verbal communication. "I don't want to answer. Please go to the next pair." (当てられて答えられない生徒の心の声を言う) How about this pair?

S: Eighty.

T: Eighty. The same. All right. How about this pair. こんなに聞いているってことはまだ当たってないんだよ。

S: Twenty-five.

T: Twenty-five. Words. How about this pair?

S: Sixty.

T: Sixty? Sixty percent. And the pair over there? 当たってないよ、全然。

S: Forty.

T: Forty. あー、なんか賭けておけばよかったな。外れたら、みなさんが(先生に)アイス。当たったら皆さんに… Yes. こんなにやっていると、当たっちゃうからそろそろ止めたい。

S: Fifty-five.

T: Fifty-five. お、すごい、当てに行ってますね。Fifty-five. 細かくなってきました。（最初に答えたペアに、そわそわしていたので）
Do you want to change?

S: Thirty-five.

T: Thirty-five. No, no. Yes?

S: Forty-five.

T: Forty-five. Why am I asking so many pairs? 数字が低すぎるから、もっと当てたいのか、皆さんが出した数字が高すぎるから、もっと聞いていきたいのか。All right.（正解を出す）

Ss: えーっ（かなりの驚き）。

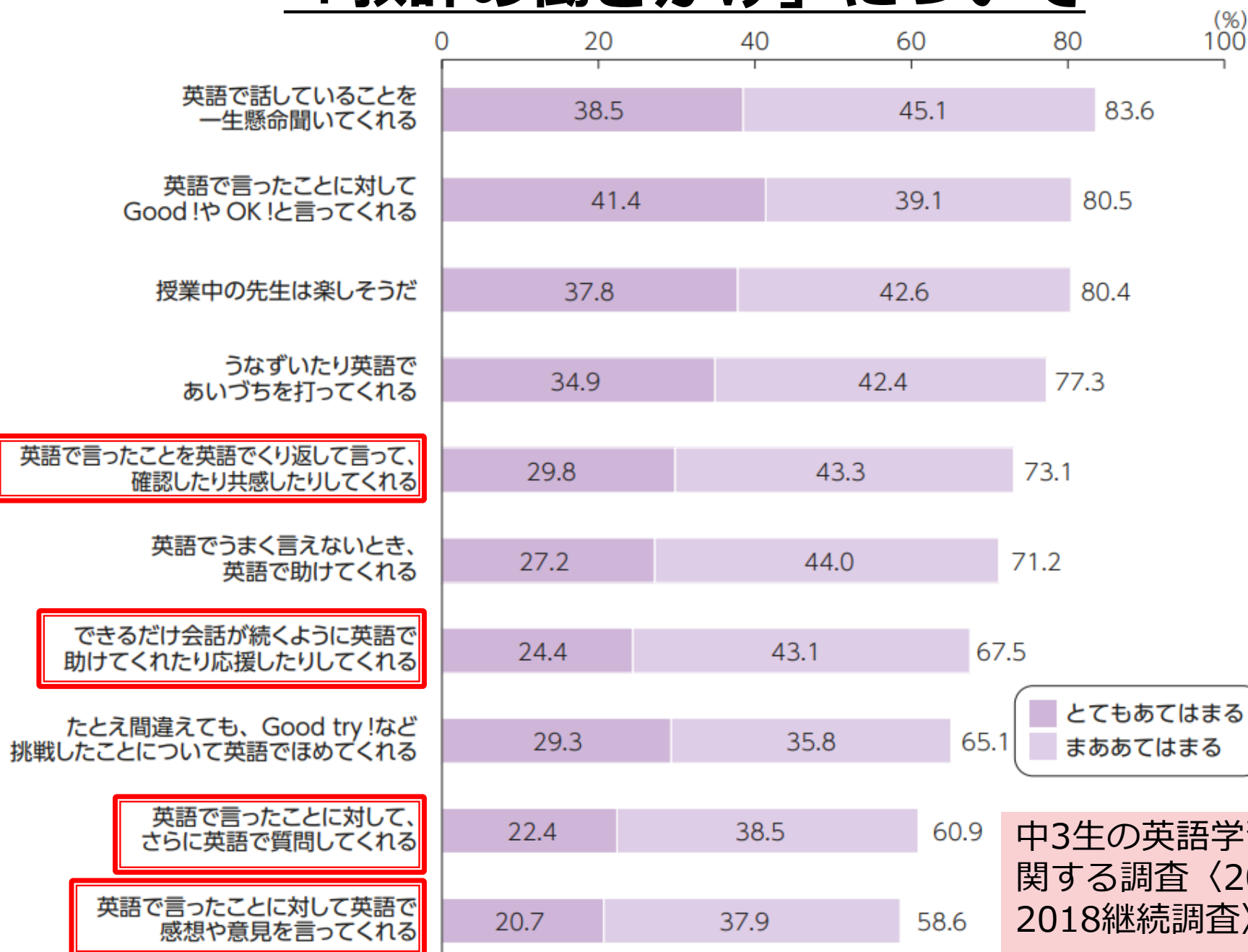
**先生と生徒のその場でのインタラクションだからこそ、これだけ「しつこく」多くのペアに聞いて、生徒に「答えを知りたい！」という欲求を持たせた
⇒ その結果、「えーっ」という驚きの声が出た**

「対面授業」ならではの特徴

- 生徒が言ったことに対して、先生が、recast や echo する
 - ⇒ 文法面や発音面などにおいて、より正確な、または、より適切な英語で上書きができる
- 指名された生徒が、（答えたくないの）首を振ったが、その動作を受けて、津久井先生は、“Non-verbal communication.”と即座に返した
 - ⇒ 突発的ではあるが、このように、先生が、その場で、生徒の興味関心を引き付ける働きかけをすることで、生徒の理解の促進に結びつく

「先生の直接的な働きかけ」の意義

「教師の働きかけ」について



「教師の働きかけ」について

「先生や友だちと英語でやり取りするのが楽しい」とのクロス集計（2018年度の研究より）

左記のような先生の働きかけがある授業を受けている生徒の方が、「英語のやり取りの楽しさ」を感じている割合が高い

教師は、対面授業の良さをより活かすために、インタラクティブのスキルを向上させることが大切

英語で話していることを一生懸命聞いてくれる

英語で言ったことに対して Good!や OK!と言ってくれる

授業中の先生は楽しそうだ

うなずいたり英語であいづちを打ってくれる

英語で言ったことを英語でくり返して言って、確認したり共感したりしてくれる

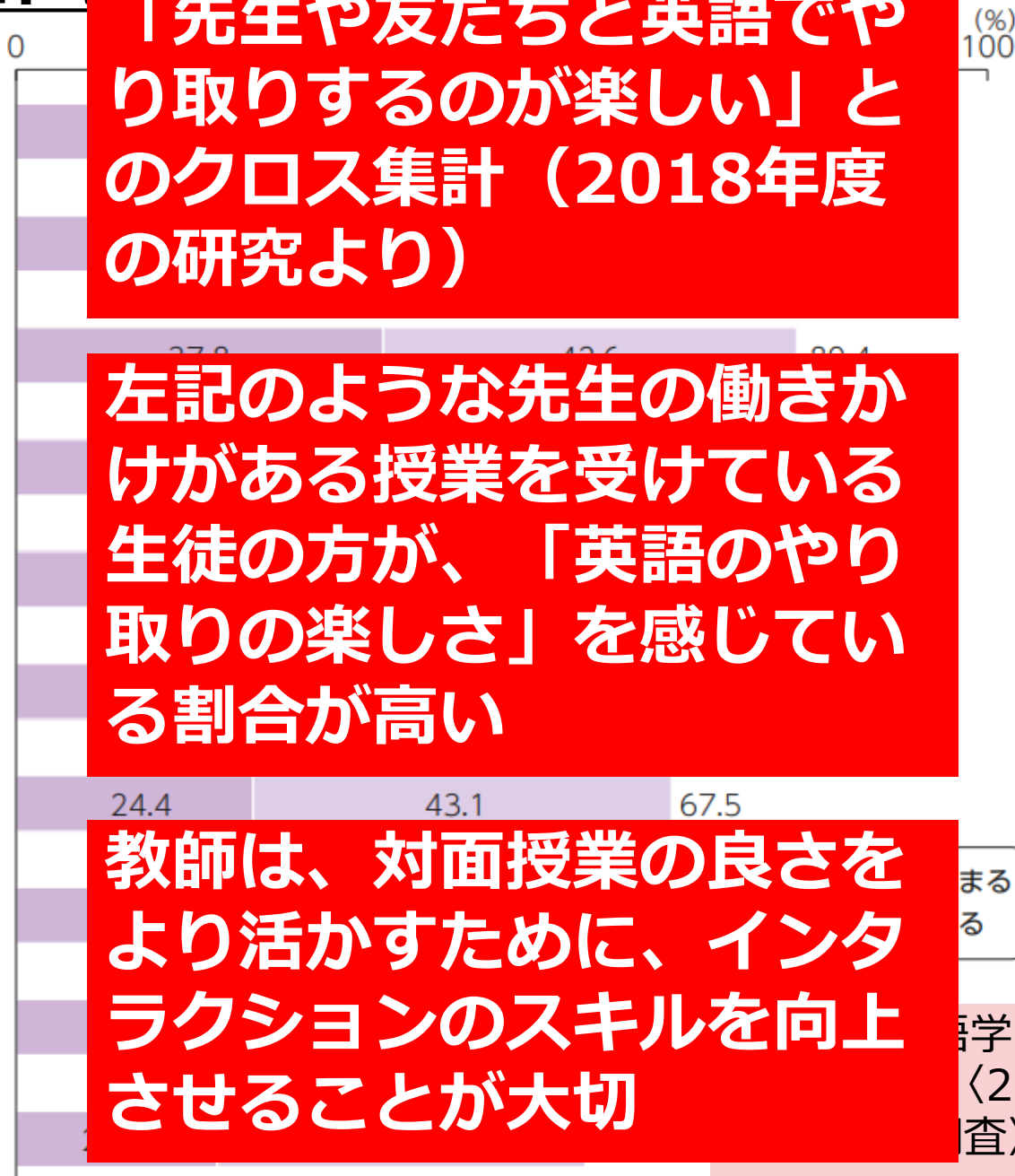
英語でうまく言えないとき、英語で助けてくれる

できるだけ会話が続くように英語で助けてくれたり応援したりしてくれる

たとえ間違えても、Good try!など挑戦したことについて英語でほめてくれる

英語で言ったことに対して、さらに英語で質問してくれる

英語で言ったことに対して英語で感想や意見を言ってくれる



(%)
100

まるる

英語学習に
〈2015 -
調査〉